

日本版DMO（地域DMO） 観光振興計画・観光地マスタープランについて

日本版DMOについて

- 観光庁によれば、「観光地における関係者の巻き込み」「データの収集・分析」「民間的手法導入」のためにDMO（Destination Management/Marketing Organization）形成・確立が必要とされている。
- 日本独特の背景として、観光関連産業が旅行業者が集中する首都圏などの発地主導で成長してきたため、着地（観光地）側のノウハウ不足が言われている。

■ 日本の観光関連産業

内需中心の独特な市場による成長

発地側（首都圏・近畿圏）
の旅行業者にノウハウが蓄積

着地側（観光地）の観光関連
事業者にはノウハウが不足

観光関連産業＝すそ野の広い産業
（宿泊・飲食・交通・土産・アクティビティ・農林漁業・文化施設。。。）

観光地の発展には地域における
巻き込みと合意形成が不可欠

■ 行政主導からの脱却

観光地の施策を自治体が立案し、職員が
法被を着てイベントでPRする時代は終焉

・効果的なプロモーション
・来訪者に関するデータ収集・マーケティング
・入込数のみでなく消費単価を意識した戦略
・市場変化への迅速な対応

民間的
手法導入

■ 観光地の中心的存在としての認知

DMO＝「観光地域づくりを担う中心的存在」
として観光庁に登録される

・自治体からの補助金が充当されている理由強化
・今後は国の補助金等の支援も登録されたDMOへの重
点配分となる可能性

倶知安・ニセコエリアにおけるDMOの現状と日本版DMOの機能分担について

- 道州制レベルを管轄する広域連携DMOはインバウンド誘客を主に担当。都府県単位や市町村をまたがる観光エリアを管轄する地域連携DMOがインバウンドのほか国内も含めた誘客PRや各拠点地域の機能整理を担当。地域DMOが観光まちづくり的業務を担当。

■ 北海道→ニセコエリア→倶知安町の場合の組織上の建て付け

◎ 広域連携DMO→（公社）北海道観光振興機構

- ・北海道観光戦略の企画推進、観光に関する提言・要望
- ・国、道および地域間調整 ・来道者調査などの北海道単位でのマーケティング調査
- ・国内プロモーション、国際プロモーション



※他の広域連携DMOは域内で複数都府県をかかえるため、国内プロモーションは競合が発生するが、北海道はこの点は恵まれている

◎ 地域連携DMO→（一社）ニセコプロモーションボード

- ・ニセコエリアのマーケティング、プロモーション
- ・ニセコエリアとしての情報発信、受け入れ環境整備



◎ 地域DMO→（一社）倶知安観光協会（候補法人申請中）

- ・リゾートエリアにおける観光視点でのまちづくり（マネジメント機能）
- ・リゾートエリアを起点として地域全体で稼ぐためのビジネスモデル創出
- ・地域への観光産業の理解促進



◎ 各階層のDMOが役割分担の元、連携し一貫した流れでDMO機能を発揮

日本版DMO（地域DMO）登録への流れ

- 平成31年1月に日本版DMO申請書類を倶知安観光協会から観光庁へ提出。3月に候補法人登録予定。今後、観光地マスタープランを町と協働で策定することでKPIや戦略の設定を行い、日本版DMO登録要件を満たして、登録法人化へ。

■ 想定スケジュール

平成30年 7月 倶知安観光協会業務執行理事会にて日本版DMO（地域DMO）化承認
平成30年10月 倶知安観光協会理事会にて日本版DMO（地域DMO）化承認
平成30年12月 経済建設委員会へ倶知安観光協会の日本版DMO候補法人登録説明
日本版DMO候補法人書類事前提出
倶知安町観光振興計画及び観光地マスタープラン事業予算議決
観光振興計画策定事業及び観光地マスタープラン策定事業開始



平成31年 1月 日本版DMO候補法人書類提出

平成31年 3月 日本版DMO候補法人登録



平成32年 3月 倶知安町観光振興計画及び観光地マスタープラン策定（登録要件の充足へ）

平成32年 3月 日本版DMO法人登録



平成32年 4月 倶知安町観光振興計画及び観光地マスタープランに基づいて取組開始

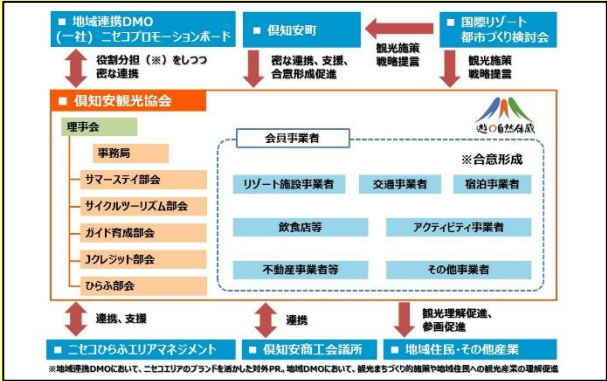
◎ 平成32年度は、倶知安町総合計画、倶知安町観光振興計画及び宿泊税の本格運用・充当が始まる時期であり、全ての足並みが揃う時期である。

法人名:(一社)倶知安観光協会
登録区分名:地域DMO

世界と伍する通年型山岳リゾートタウン

【区域】北海道倶知安町
【設立時期】昭和24年6月22日
【代表者】吉田 聡
【マーケティング責任者】天沼 清貴
【職員数】3名
【連携する主な事業者】
(一社)ニセコプロモーションボード、倶知安町、倶知安町商工会議所、株式会社東急リゾートサービス、日本ハーモニーリゾート(株)、(株)HTM、JR北海道(株)倶知安駅、道南バス(株)倶知安営業所
ようてい農業協同組合倶知安支所

(表:実施体制)



(表:KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
旅行消費額	—	—	実施準備	調査開始	前年比100%以上
延べ宿泊者数	1,248,100 (354,303)	1,273,000 (433,685)	前年比100%以上	前年比100%以上	前年比100%以上
来訪者満足度	—	—	実施準備	調査開始	前年比100%以上
リピーター率	—	—	実施準備	調査開始	前年比100%以上

通年型国際リゾート形成の取組

ニセコひらふ・花園エリアはパウダースノーを求めて世界中から観光客が訪れる冬季と他シーズンの繁閑差が大きく、雇用の安定やホスピタリティ向上の面で課題となっているため、グリーンシーズンにおける継続したアクティビティの掘り起こしや戦略的なリゾートMICE誘致により繁閑差を埋め、海外リゾートと競っていく。

観光を起点としたまちづくり、エリアで稼ぐビジネスモデルの取組

特にニセコひらふエリアでは、中小の事業者が多く、各事業者の多彩な特色がエリアの魅力ともなっている。しかしながら、海外リゾートと競うためには、エリアで一体となったデータ分析やエリアで稼ぐビジネスモデル構築が必要となる。このためにもあるべき観光地の姿をまとめ、これを達成するマスタープランを策定し、観光を起点としたまちづくりを推し進めていく。



リゾートダウントown機能形成、地域住民の観光理解促進の取組

倶知安町はニセコエリアのみならず羊蹄山麓エリアの中心的な町であり、金融機関や公的機関、各支店、間接的に観光と関わる事業所が立地する。これら都市的機能とリゾートエリアの産業の連携を加速させ、リゾートダウントown機能の充実を図る。あわせて、倶知安町では様々な場面で観光が関連するという点について地域住民への理解促進を図り、リゾートがあるまちとしての意識醸成、将来の人づくりを図っていく。

自然環境・景観保全の取組

リゾートエリアとなるニセコアンヌプリの他にも、地域のシンボルである羊蹄山やじゃがいも畑が広がる農村景観、清流尻別川といった自然環境・景観がある。景観保全の取組や環境保全の意識の啓発を図り、持続的な観光に繋げる。

観光振興計画・観光地マスタープランについて

- 倶知安町とDMOが協働して、エリア（倶知安町）で観光で稼いでいくための戦略となる観光地マスタープランを作成。このうち観光に対する行政の方針と、観光を下支えする行政の取組部分について観光振興計画として取り出す。

■ 観光振興計画・観光地マスタープランのイメージ

○観光振興計画・観光地マスタープラン期間 平成32年度から12年程度を予定

観光地マスタープラン（DMO・行政協働）

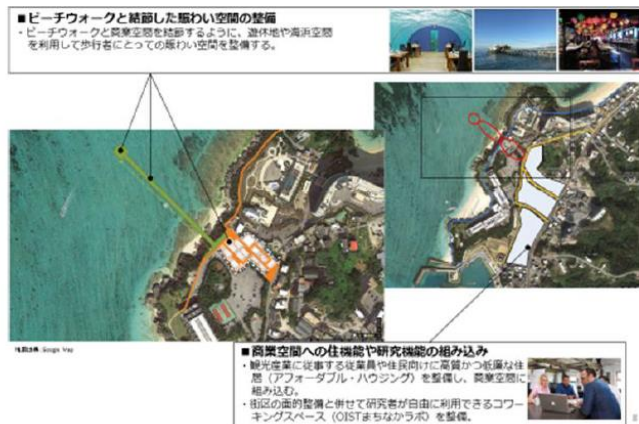
- 観光地の多様な参画者の意見をもとに、リゾートとしてどのように稼いでいくかという、あるべき姿（ビジョン）をまとめ、これを達成するための道筋（マスタープラン）を策定する。観光産業としてのアプローチ。
- ※DMOにより観光関係事業者、地域団体、行政の合意形成を図る

観光本体分野

下支え分野

観光振興計画（行政）

- 観光に対する行政の方針
- 観光産業を下支えする取組



リゾートのあるべき・目指すべき姿を視覚的に地域関係者が取りまとめ・共有し、これに向けたビジネスモデルを構築、マスタープランを策定していく。
（例）沖縄県恩納村

観光振興計画・観光地マスタープラン作成の流れについて

- 2020年2月までの期間を用いて、観光振興計画・観光地マスタープランを作成。
- 現地調査を行うとともに諸課題を抽出した後、6回程度の検討会を経て作成。

■ 課題の抽出

- かねてからの課題→繁閑差対策、2次交通対策、MICEの方向性打ち出し、交流拠点機能整備など
- 情勢変化対応→異なる国々・客層対応、「質」を持続するためのキャパシティコントロール、人手不足対応など
- 発展的・戦略的取組→本格的なDMO形成、インバウンド先進地の注目度活用、投資誘導のための景観形成、海外市場の多極化、国内市場の継続的開拓、イベント等閑散期対策の戦略化など

■ 将来ビジョン設定

- 滞在目的となるライフスタイルの設定
- 先進的な観光地として目指すべき方向性の設定



■ ビジョン達成のための方法・手順書（マスタープラン）

- エリア戦略の設定、施設整備の方向性、景観整備・資産価値向上に寄与する開発誘導の方向性
- 来訪者の滞在を演出するサービス集積、産業循環の構築、持続的発展と観光地としての容量
- 観光地住民のQOLの向上、観光のために行政のすべき（できる）こと



- ◎ DMOにおけるKPI・戦略提示、旗振り役として進む道筋づけ（観光地マスタープラン）
- ◎ 倶知安町が観光産業を今後どうしていきたいかの姿勢提示（観光振興計画）